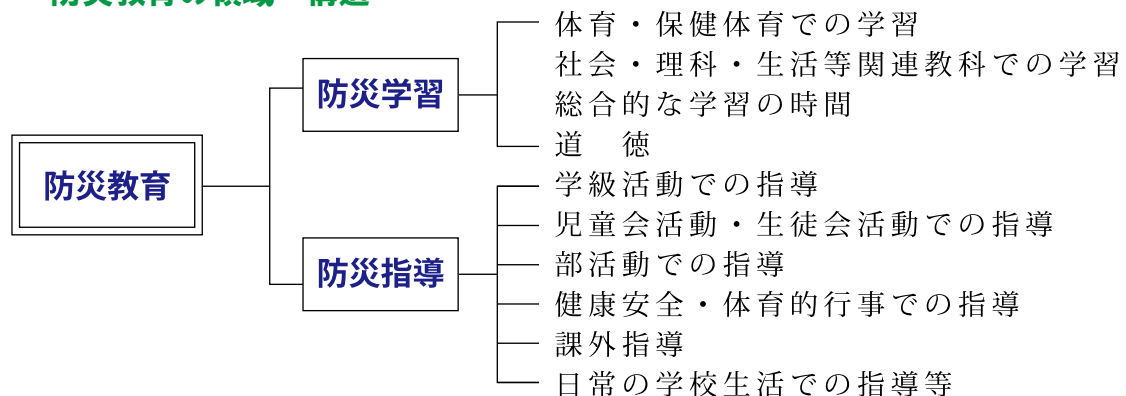


2 防災教育の充実

(1) 防災教育のねらい

- ・災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ・災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができるようにする。
- ・自然災害の発生メカニズムをはじめとして、地域の自然環境、災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解出来るようにする。

(2) 防災教育の領域・構造



(3) 学級活動における防災指導

① 学級活動・ホームルーム活動の留意点

ア 地震等災害時の安全指導について

学級活動における防災指導のねらいは、災害が起こったとき、的確な判断のもとに、安全に行動できる態度や能力を育成することにある。したがって単なる知識・理解にとどまらず、災害時における対応の仕方を具体的な行動場面に即して指導することが大切である。

特に地震は、発生する時間帯、規模、状況等によって災害発生時の対応が違ってくるので、様々な状況を想定して授業を展開し指導していかなければならない。

さらに、離島を多く抱える沖縄県では、津波や局地的大雨等による災害が、学校外においても発生することも予想されるので、十分な対応が必要である。

イ 発達段階に応じたねらいについて

- ・幼稚園
火災や地震・気象災害等の発生時に職員の指示で安全に避難できるようにする。
- ・小学校低学年
火災や地震・気象災害等の安全な行動について知り、職員の指示に従って避難できるようにする。
- ・小学校高学年
火災や地震・気象災害等の様々な場面における避難の仕方を知り、安全に避難・行動できるようにするとともに、他の人の安全にも配慮できるようにする。
- ・中学校
火災や地震・気象災害等の危険についてさらに理解を深め、落ち着いて素早く安全に避難・行動するとともに、防災への日常の備えができるようにする。
- ・高等学校
火災や地震・気象災害等の危険についてさらに理解を深め、落ち着いて素早く安全に避難・行動するとともに、学校や家庭、地域における防災活動に協力できるようにする。
- ・特別支援学校
児童生徒等の障害の状態を考慮し、日頃から訓練を行うとともに、災害発生時には職員の指示に従って安全に避難できるようにする。

② 防災教育年間指導計画(例)〔小学校・特別支援学校小学部〕

		内 容		
		低学年	中学年	高学年
ね ら い		火災や地震、気象災害時の危険について理解し、先生の指示によって、決まりを守り、安全に避難ができるようにする	火災や地震、気象災害時に起こるいろいろな危険について理解し、危険を回避できるよう情報や指示がわかり、工夫して、安全に避難ができる能力や態度を養う	火災や地震、気象災害時のいろいろな場合の危険について理解し、場に応じた避難の仕方を知り、他の人の安全にも考慮して、的確な判断に基づいた避難ができるようにする
	○ 月 時	<ul style="list-style-type: none"> ○火災や地震が起きたら ・安全に避難する ・地震の時は、机の下に隠れる ・頭部を保護する 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難の仕方と安全な行動 ・廊下にいるとき ・校庭で遊んでいるとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難の仕方と決まり ・先生の指示に従う ・隊列を崩さない ・走らないで素早く移動する ・混み合うところでの下級生優先 ・押さない ・駆けない ・しゃべらない ・もどらない ・近寄らない (お、か、し、も、ち)
		<ul style="list-style-type: none"> ○避難の仕方と決まり ・押さない ・駆けない ・しゃべらない ・もどらない ・近寄らない (お、か、し、も、ち) 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難の仕方と決まり ・押さない ・駆けない ・しゃべらない ・もどらない ・近寄らない (お、か、し、も、ち) 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難の仕方と決まり ・押さない ・駆けない ・しゃべらない ・もどらない ・近寄らない (お、か、し、も、ち)
期	<ul style="list-style-type: none"> ○台風や大雨等の気象災害の時の安全な行動 ・台風の時は外にでない ・大雨の時は、川に行かない、川から離れる、近づかない 	<ul style="list-style-type: none"> ○台風や大雨等の気象災害の時の安全な行動 ・台風の時は外にでない ・大雨の時は、川に行かない、川から離れる、近づかない 	<ul style="list-style-type: none"> ○台風や大雨等の気象災害の時の安全な行動 ・台風の時は外にでない ・大雨の時は、川に行かない、川から離れる、近づかない 	
○ 月	<ul style="list-style-type: none"> ○火災や地震の時に起こる危険 ・教室で倒れやすいもの ・こわれやすいもの ・火災 ・津波 ・塀などの倒壊 ・津波の恐れがある場合は、高台へ避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ○火災や地震の時に起こる危険 ・揺れに伴う落下物 ・戸棚類 ・家屋、塀などの倒壊 ・地割れ、土砂崩れ、電線などの切断 ・津波 ・津波の恐れがあるときは、高台へ避難する 	<ul style="list-style-type: none"> ○火災や地震の時に起こる危険 ・学校にいるとき (校舎内、校庭、運動場) ・家庭にいるとき ・道路を歩いているとき ・海岸にいるとき(津波) ・遠足や集団宿泊などの行事で出かけているとき ・津波の恐れがあるときは高台へ避難する 	

③ 防災教育年間指導計画(例)〔中学校・高等学校または特別支援学校中学部・高等部〕

月	種別	訓練内容	指導事項及び管理事項	対象
○ 月	地震 火災 ・ 気象 災害	防災計画と組織の共通理解	避難、救助、搬出、点検、年間計画 平常時、災害時の役割分担	全職員
	地震 火災 ・ 気象 災害	防災計画と組織の共通理解	放送や指示、伝達をよく聞く態度 避難の合図、経路、集結の方法	全生徒
○ 月	地震 ・ 津波	危険物、危険箇所の点検・整備	ガラス窓、下足箱、薬品等倒壊物の点 検整備、電気、水、ガス栓の確認	全職員
		授業中の避難方法の体得	机の下など安全な場所への一時避難	全生徒
○ 月	地震	休憩時の避難方法の体得	机の下などへ一時避難 第一次避難場所への退避、集結、点呼	全生徒
		反省と次年度評価	各係り分担の反省、施設・用具の点検、 校内避難経路の安全点検、計画案	全職員



(高台の避難場所への避難の様子)

(4) 学校の施設・設備等の安全対策

学校安全の基本的な考え方には、「①児童生徒等が安全について必要な事柄を理解し、常に安全な行動ができる態度や能力を育てる。(安全教育) ②児童生徒等の学校生活が安全に営まれるよう安全に関しての必要な条件整備をする。(安全管理)」がある。

つまり、学校施設の整備は安全対策の基本である。したがって、毎月の安全点検は不可欠であり、常に施設・設備等の状況を把握しておく必要があるとともに、火災を含め地震等の自然災害を想定した安全対策の実施を日常化すべきである。

① 防災上必要な設備等

- ア 消火用器具・・・消火器、屋内消火栓、スプリンクラー、水バケツ、防火扉、水道、水槽、プール、二酸化炭素消火設備
- イ 避難・救助施設・・・誘導灯、避難器具、非常口、はしご、救助袋、ハンドマイク、懐中電灯、携帯電話
- ウ 災害通報予告・・・自動火災報知器、非常警報設備、非常ベル、漏電火災報知器、放送設備
- エ 医薬品等・・・担架、救急箱、緊急医薬品セット、緊急用自動車
- オ 生活維持・・・テント、ロープ、水、毛布、ポリタンク

② 火災・地震等による災害の予防対策

施設・設備等	物品等	確認事項
*各教室、廊下、階段	窓ガラス、テレビ、戸、清掃用具、整理棚、扇風機	棚類の転倒防止の止め具はよいか 落下する可能性のものはないか 整理棚はきちんと整理されているか 扇風機の取り付けは十分か
*理科室、保健室	劇薬、医薬品庫、水槽、収納庫、ベット	薬品は収納庫に整理して保管されているか 混合発火を防ぐために種類別になっているか 保護液をセットしているか 医薬品庫の戸締まりはきちんとしているか ベットの転倒等のおそれはないか
*技術室・家庭科室	ガス栓、ガソリン炊飯器、工作機械揮発油、シンナー食器類、整理棚食用油	機械の倒壊防止対策はよいか 発火しやすい燃料保管は適切か 整理棚の倒壊により食器の散乱はないか 漏電防止対策はよいか ガスの元栓は閉めているか 設置器具の老朽化はないか 倒壊により油の流出防止策はできているか
*体育館、プール準備室	体育倉庫、ボールかご、リング、水銀灯、水道テレビ、太鼓整理棚、ピアノ	倉庫の整理整頓は十分か ボールかごの整理は適切か 水銀灯の落下等安全対策は十分か プールの水の漏水管理はよいか 漏電の危険性はないか テレビ台や整理棚の倒壊防止対策はよいか 体育備品の整理整頓はできているか ピアノのすべり止めはなされているか
*コンピュータ室	パソコン整理棚	パソコン・整理棚の倒壊はないか 漏電防止対策はなされているか パソコン転倒防止対策はできているか

* 図書館、進路室	書庫、テレビ 書物、クーラー	書庫の整理整頓はできているか 書庫の転倒防止対策はできているか テレビ台及びテレビの転倒防止対策はなされているか 書物は散乱防止対策はよいか クーラーはしっかり固定されているか
* 職員室、事務室	ガラス棚、パソコン、テレビ、電話、ガス栓	漏電の可能性はないか 電気の漏電対策はよいか パソコン・テレビの転倒防止対策はなされているか 水道の腐食及び損壊はないか 机・いすの転倒の可能性はないか ガス漏れ及びガス栓の腐食はないか コピー機のすべり止めはなされているか
* 音楽室・美術室	整理棚、楽器棚 ピアノ、音響施設	ピアノのすべり止めはなされているか 作品等の整理は十分されているか 作品棚等の転倒防止対策はなされているか

③ 火災・地震等が生じた場合の対応策

防火管理者は、火災の状況を児童生徒等に周知するとともに、初期消火及び児童生徒等の安全を優先し、避難指示をする。また、地震の場合は、倒壊等による災害に対応しながら避難をさせる。

各係りは、迅速に動き、適切な対応をする。損壊物等による二次的な事故が起きないように配慮する。

ア 児童生徒等の誘導の仕方

(ア) 「授業中」(学級担任又は教科担任)

火災発生の場合 → 教室の窓を閉める → 廊下に2列で並ぶ → 職員は出席簿を持ち、児童生徒等を迅速に避難場所へ誘導する → 学級担任は人員の確認・負傷の有無を確認する → 学級担任は、学年主任へ報告する → 学年主任は、校長又は教頭に報告する

(イ) 「休憩時間中」

火災・地震発生 → 児童生徒等は職員に通報、職員は教頭に連絡通報し、教頭は119番へ通報する → 職員は避難場所通路等を指示する → 担任は危険でない限り学級の残留者の有無を確認する → 避難場所で学級の人員を学年主任へ報告する

イ 防災管理

(ア) 消火班

火災発生場所に行き初期消火に努める → 消防車が到着次第、消火活動に協力する → 火災状況の報告をする(消防車の進入経路の確保・障害物の除去)

(イ) 通報連絡班

災害状況の通報、避難の指示 → 消防署、教育委員会等の通報 → 係調整

(ウ) 誘導班

各階の児童生徒等を把握し、状況に応じて安全な場所へ誘導 → 逃げ遅れた児童生徒等がないか点検する

(エ) 救護班

被害者の救急処置

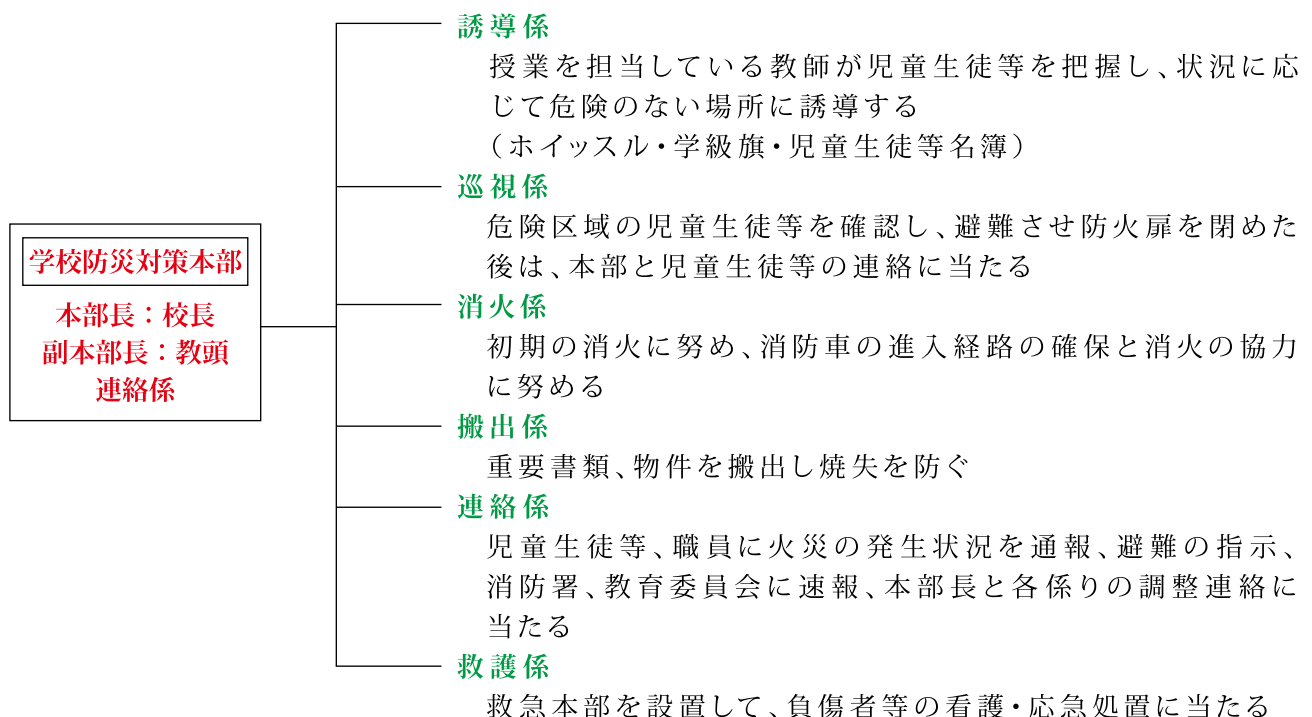
(5) 職員の動員計画

教育計画に位置づけた「学校安全計画」の実践事項を、全職員が熟知して、学校災害を極力防止する。万一災害発生した場合は、その災害発生を最小限に押さえるために、組織的な活動を展開すべきである。

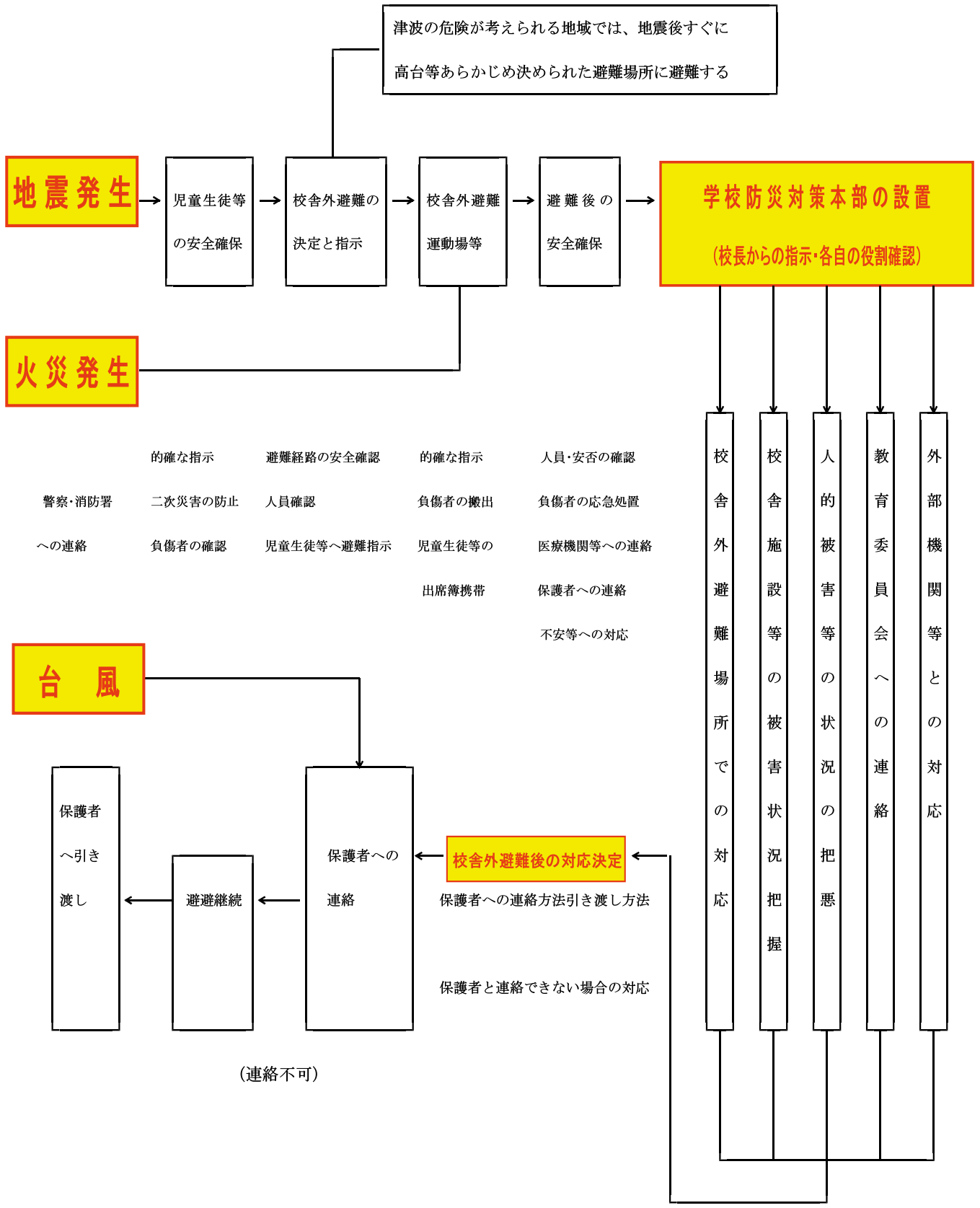
① 職員による組織作りの例



② 職員業務別分担例

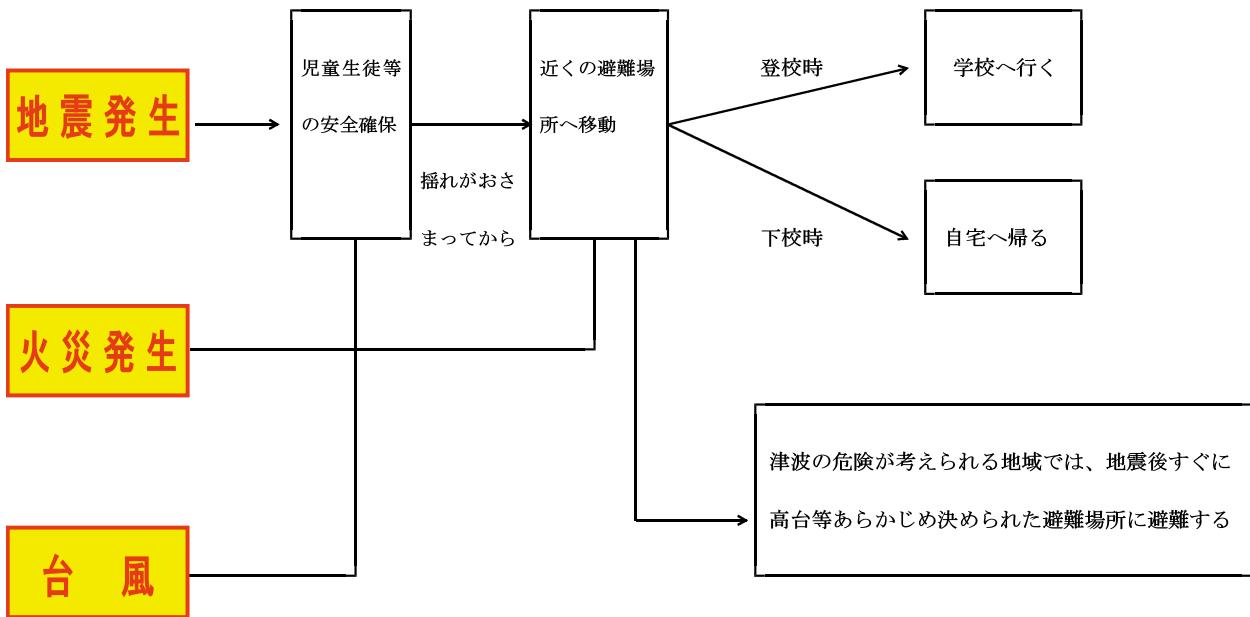


(6) 災害時の対策フローチャート
 ① 在校中（児童生徒等の行動・職員の対応）

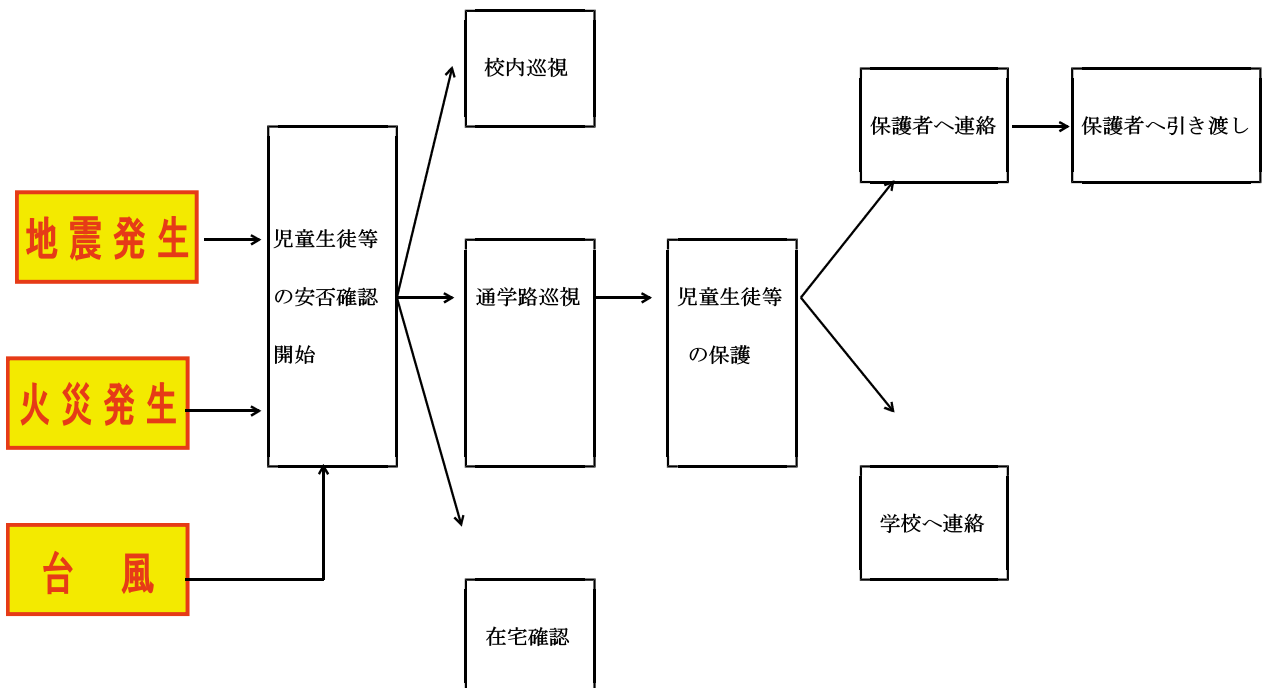


② 登下校時

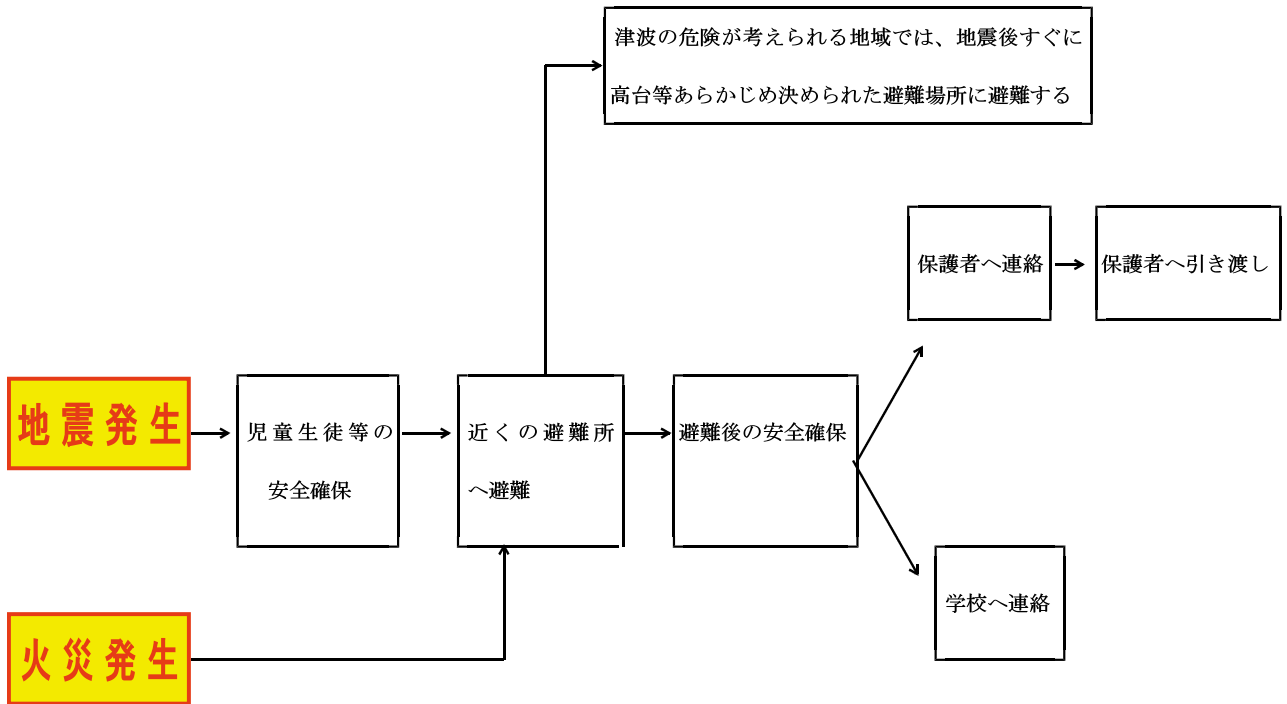
ア 児童生徒等の行動



イ 職員の対応



③ 学校外学習中(児童生徒等の行動・職員の対応)



(津波を想定した避難訓練の様子)

(7) 事後の取組み

① 災害後の検証

災害は予測が困難であるために、日頃からの備えが大切であることはいうまでもない。不幸にしてひとたび災害にみまわれた際には、困難な状況をいち早く解決し、平常な状態に戻す努力とともに、今回の災害を教訓に、今後起こる災害に備えることも大切である。

したがって、災害に対して、学校の危機管理マニュアルがどのように生かされたか、また、職員や児童生徒等がどのような行動形態を取ったか、具体的に分析し、その上に立った対策を構築していくことが被害を最小限に食い止める大きな力になる。

② 避難訓練評価表（例）

観 点		訓練内容	反省事項等	評 価
児童生徒等	初期行動	児童生徒等の安全確保 姿勢（地震） 放送を聞く態度		
	避 難	避難行動 「お・か・し・も・ち」 避難経路 避難に要した時間		
	人数点検	整列		
職 員	学校防災 対策本部	計画 期日、時刻 組織の機能 本部 誘導係 消火係 搬出係 連絡係 救護係		
	担任及び 授業担当者	指示の明確さ 誘導の的確さ 集団の的確な把握 人員点検の正確さ、速さ 事前、事後指導 他職員との連携 (児童生徒等の引継)		
消防署等からの 指導助言				

(8) 災害発生時の被害状況の報告

小・中学校は、台風や地震等の災害が発生した場合には、被害の有無に関わらず、直ちに被害状況を把握し、当該市町村教育委員会へ速やかに報告を行う。

市町村教育委員会は、それらを取りまとめ、県教育庁保健体育課へ報告する。

県立学校は、直接県教育庁保健体育課へ報告する。

【資料1】 災害発生時の被害状況報告例（市町村教育委員会用）

（台風○号、地震）による学校の人的被害状況等について

市町村教育委員会名（ ）

〔休業措置を行った幼稚園・小学校・中学校（県立高校・特別支援学校）〕

	学校名	休業措置をとった期日・時間帯	備考
	（例）沖縄中学校	○月○日（ ）終日休業等	
1			
2			
3			
4			
5			
6			

〔園児・児童・生徒の人的被害状況〕

	被害があった学校名	被害状況	備考
	（例）沖縄中学校	（例）暴風時に外出した際、強風により転倒、左足首骨折等	入院中
1			
2			
3			
4			
5			
6			